

漢方エキス 製剤の 上手な使い方

～困ったときの この一手～

2018年 **6月9日** (土)
16:00～18:30

大阪国際会議場 第2会場(小ホール)

オーガナイザー

木村 容子 先生

東京女子医科大学東洋医学研究所

シンポジスト

紀 優子 先生

きの小児科医院(京都)

許 郁江 先生

ほう皮膚科クリニック(岡山)

多和田 利香 先生

Fクリニック沖縄

山崎 麻由子 先生

埼玉県済生会栗橋病院腎臓内科・漢方内科

任 智美 先生

兵庫医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科

柳 受良 先生

ゆうメンタルクリニック(福岡)

第69回日本東洋医学会学術総会スポンサードセミナー1

第25回 東洋医学シンポジウム

The Japan Society for Oriental Medicine



漢方エキス製剤の上手な使い方

～困ったときのこの一手～

本シンポジウムは、寺澤捷年先生、後山尚久先生と歴代コーディネーターが続けてこられた「こんな時には漢方を」の基本コンセプトを継承しつつ、「漢方エキス製剤の上手な使い方 ～困ったときのこの一手～」と題し、新たな目線で現代医療へエキス漢方を取り入れる実践的な方法を、エキスパートの先生方によるディスカッションを通してご提案したいと考えております。

今回は、小児科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、腎臓内科・漢方診療科、心療内科・精神科の先生方にシンポジストとしてご参加いただき、幅広い分野にわたる漢方治療の実際についてご紹介いただきます。

第Ⅰ部では、西洋医学だけでは十分に把握できなかった病態や治療に難渋していた疾患に対し、漢方エキス製剤を併用したことによって、より優れた効果や高い満足度が得られた症例をご提示いただき、日常診療における漢方療法の取り入れ方、文字通りエキス製剤の上手な使い方について話合います。

第Ⅱ部では、頻用処方の中から加味逍遙散と桂枝茯苓丸を取り上げ、各科での使用経験を通して現代の“口訣”を考えてみたいと思います。この2処方はいずれも、瘀血の病態を中心に各診療科で広く用いられており、今後ますます西洋医学との融合が注目され有用性が増していくと予想される処方です。各先生方が患者さんを診療するときに頭の中でめぐらせている考えを、できる限り具現化し皆様にわかりやすくお示しすることによって、明日からの臨床に少しでもお役に立てるシンポジウムを目指したいと思います。

オーガナイザー 木村容子

The Japan Society for Oriental Medicine

OSAKA

